救急処置実習Ｂ－Ⅰ		実習	准教授　古川　慎太郎 講　師　清家　洋	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目		科目ナンバリング	13391303

１．授業のねらい・概要

医療機関における臨地実習を通じて救急救命士として必要な医療安全，感染対策，チーム医療を理解するとともに，事前事後教養を通じて病院内救急医療活動に必要な知識・技術の修得を図る。また，病院前で活動する救急隊の活動を病院内スタッフとして客観視することにより，医療従事者として救急救命士が何を求められているかを考えるきっかけとする。

２．授業の進め方

病院実習に臨むにあたり，事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより病院実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り，実習先の医療機関を割り当て臨地実習を行う。

３．授業計画

１．病院実習に対する心構え 病院実習に臨むにあたり，目標や現在まで学んできた医学知識と技術について整理を行う。 ２．病院実習に関するマナー 病院のマナー（他の医療スタッフや患者との対応）について理解を深め，知識を整理する。 ３．病院の機能（組織・各部門の業務） 病院の機能（組織・各部門の業務）について理解を深め，知識を整理する。 ４．医師の仕事と役割 医師の仕事と役割について理解を深め，知識を整理する。 ５．看護師，その他医療スタッフの仕事と役割 看護師，その他医療スタッフの仕事と役割について理解を深め，知識を整理する。 ６．病院における救急患者への接遇 病院における救急患者への理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 ７．救急患者の家族への接遇 救急患者の家族への接遇要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 ８．救急患者に対するケアとインフオームドコンセント 救急患者に対する排疾・吸引・おむつ交換や体位管理といったケアとインフオームドコンセントの重要性について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 ９．患者家族に対するケアとインフオームドコンセント 患者家族に対するケアとインフオームドコンセント	17. 救急患者に対する処置（デバイスを使用した気道確保） 救急患者に対すデバイスを使用した気道確保の要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 18. 救急患者に対する処置（手術時の気道確保） 手術時に救急患者に対して実施される気道確保要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 19. 救急患者に対する処置（緊急時の気道確保） 大量の口腔内出血がみられる救急患者に対する外科的気道確保要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 20. 救急患者に対する処置（まとめ） 救急患者に対する気道確保の種類や判断についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 21. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 救急患者へ静脈路確保を行うために，迅速・清潔な準備要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 22. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 意識がある救急患者に対する静脈路確保要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 23. 救急患者に対する処置（静脈路確保）

の重要陛についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 10. 救急患者の観察 （五感による観察） 救急患者に対する五感 （視診・触診・打診）を活用した観察要領についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 11. 救急患者の観察（資機材による観察） 救急患者に対する聴診器，血圧計といった資器材を使用した観察要領についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 12. 救急患者の観察（心電図） 救急患者に対する 12 誘導心電図の貼付方法，取得方法や読影方法についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 13. 救急患者の観察（処置の維持管理状態の観察） 救急患者の体内に挿入されているチューブや点滴といった処置内容が適正・継続的に維持管理されているかの観察要領についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 14. 救急患者の観察（画像診断検査による観察） 救急患者に対する X 線，超音波や MRI といった画像診断検査に伴う患者の移動方法，撮影方法や読影方法についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 15. 救急患者に対する観察（まとめ） 救急患者に対する観察の組合せや判断についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 16. 救急患者に対する処置（用手気道確保） 救急患者に対する用手気道確保の要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。	意識障害がある救急患者に対する静脈路確保要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 24. 救急患者に対する処置（静脈路確保） CPA、患者に対する静脈路確保要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 25. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 救急患者に対する静脈路確保の準備や判断についての知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 26. 入院患者に対するナーシングケア実習 入院患者に対するナーシングケアとは何かについて理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 27. 入院患者に対するナーシングケア実習 入院患者に対するナーシングケアを行うにあたり，必要となるコミュニケーションや患者の観察要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 28. 入院患者に対するナーシングケア実習 ベッド上での患者の体位変換について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 29. 入院患者に対するナーシングケア実習 入院患者に対する排疾や吸引要領について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 30. 入院患者に対するナーシングケア実習 入院患者に対するナーシングケアの重要性と必要性について理解を深め，知識を整理する。さらに，実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート，小テストの見直し，ノート整理）を適宜提示する。これには週 6 時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１） 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ，次回の授業時に提出しフィードバックを行う。

２） 課題

a) 教員は学生が提出した課題を評価し，フィードバックを行う。

b) 課題で重要な部分は，次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

３） 実技試験

a) フィードバックは,実技不適部分を中心に行う。

b) 学生から質問された疑問点は,個別に回答する。

４） 筆記試験

a) 解答は口頭で発表する。

b) 解説は不正解問題を中心に行う。

６．到達目標

１）実際の患者に接して専門医師や医療スタッフの役割について理解を深める。

２）医療処置や患者対応について理解を深める。

３）患者を医療者としての観察・判断能力を高める。

７．成績評価の方法・基準

１）成績評価の基準

実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また，経験した症例について理解している。

２）成績評価の方法

a) 病院院実習指導医による評価（40%）

b) 症例レポート（40%）

c) 症例発表会の内容（20%）

８．テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)

診察と手技が見える NO.１（メディックメディア）

診察と手技が見える NO.２（メディックメディア）

９．受講上の留意事項

１）基本的に，当科目履修前に事前履修しておく科目として,「救急処置演習 A-Ⅰ」,「蘇生処置演習」,「救急処置演習 A-Ⅱ」,「外傷救急処置演習」,「解剖学」,「生理学」,「生化学」とする。

２）実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に証明書を提出した学生のみ履修できる。また，実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で,「２.授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが，医療機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合，または事前教養で不適と認められた学生については，医療機関における実習は認めない。なお，医療機関における所要の実習を受けることができなかった学生については，単位認定を行わない。

３）実習先医療機関より，実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合には，所要の調査を行い，実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は,救急医療機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。